

2025年8月14日

各 位

会 社 名 K u d a n 株式会社
 (コード番号4425 東証グロース)

代表者名 代表取締役 C E O 項 大 雨
問合せ先 管理部長 石 井 達 裕
 (TEL.03-6892-7333)

Kudan、次世代デジタルツインソリューション「Kudan PRISM」を正式リリース ～フォトリアル3Dと空間知覚の融合で、サブスクリプション中心の収益基盤を強化～

Kudan株式会社（本社：東京都、CEO：項 大雨、以下「Kudan」）は、次世代デジタルツインソリューション「Kudan PRISM（Photo-Realistic Integrated Spatial Management）」を本日正式にリリースしましたことをお知らせいたします。本ソリューションは、既存の「DAMS（Digital Asset Management Solution）」を進化させ、最先端の3D Gaussian Splatting技術とKudan独自の空間知覚（Spatial Intelligence）技術を融合しています。これにより、現実空間のフォトリアルな3D再構築を活用しつつ、AIによる自動解析と高度な設備資産データ管理を一体化した、全く新しい空間・設備情報管理プラットフォームを提供します。

1．市場背景と課題

世界のデジタルツイン市場は、いま本格的な成長局面に入っています。代表的な調査では、2024年約3,700億円規模から2030年に約23兆円へ拡大（CAGR 34.2%）※1と予測されています。さらに、複数の調査機関の分析によれば、2040年には100兆円規模※2に達する可能性があるなど、長期的にも高い成長が見込まれます。

一方、現場が抱える課題は明確であり、老朽化対策と人材不足が同時進行する中で、橋梁・トンネル・プラント・都市インフラなどの維持管理には、高精度な現状把握と省人化・効率化の両立が求められます。しかし、従来の「点群中心」のソリューションは、データ容量の大きさによる扱いづらさ、表示の遅延や操作の煩雑さ、既存システムとの連携困難といった制約が産業界での活用において大きな壁となってきました。

Kudan PRISMは、こうした実務上のボトルネックを解消するために設計されています。軽快に動くフォトリアル3D表示に、資産情報（メタデータ）を意味づけして統合する仕組みを組み合わせることで、設備・施設管理、インフラ点検、ロボティクス、スマートシティ分野における業務をDX化し、低コストで高頻度な運用を可能にします。

2．市場既存ソリューションとの差別化ポイント

- **写真のように見える3Dをすばやく作成、軽快に動作：**現場の様子を“そのまま”3Dで再現。一般的なノートパソコンやタブレットでも滑らかに動き、業務の確認、指示等の高速化を実現します。

- **多様なスキャン方式で現場にフィット**：XGRIDS社との協業により、ハンドヘルド・ドローン・ロボット搭載など、環境に合わせたデータ取得が可能。また、定点撮影を必要とせず、広範囲を短時間で高精度に3D化できます。
- **使いやすく、拠点が増えても運用しやすい**：1拠点の試行から、複数拠点・全社展開へと段階的に拡張可能。現場と本部がリアルタイムに同じ情報を見ながら意思決定できます。
- **“情報を3Dに集約”し、探す時間を削減**：設備の台帳・図面・手順・点検履歴まで3D上で一元管理。現場でも遠隔からでも必要情報に即アクセス可能です。
- **AIが“異常の見落とし”を防ぐ**：劣化や異常の可能性を自動で検知しお知らせ、復旧作業の優先順位付けを支援。属人化を減らし、品質を底上げします。
- **導入しやすい柔軟な運用形態**：クラウド（SaaS）／プライベートクラウド／オンプレミスを選択可能。閲覧・編集権限を細かく設定し、企業ガバナンス基準に準拠して運用可能。

3．導入による期待効果

- **“早く・安く・頻繁に”現場の最新状況を把握**
軽量でフォトリアルな3Dを短時間で生成。差分更新で常に最新化し、現場確認や再訪の回数を減らします。
- **業務効率化によるコスト削減**
3Dフォトリアルモデルを“社内の信頼できる一元的な情報源”とすることで、探す・確認する・入力する手間を削減（人件費・移動費・手戻り費の低減）。
- **品質と稼働率の向上**
AIと標準手順により点検品質を均一化。故障を早期に発見・対応し、ダウンタイムを短縮し、設備の安定稼働に寄与。
- **リスクとESGの見える化・改善**
重要設備のリスクを把握し、災害時の影響を3Dでシミュレーション。出張・巡回の削減によりCO₂排出の低減にも貢献。
- **人材不足への備え（ナレッジ継承）**
ベテランのノウハウを3D上の注釈・テンプレートに蓄積。新人の早期戦力化と、拠点間の品質均一化を実現。

4．対象ユースケース

- **アセットマネジメント**：施設・設備の資産情報を一元管理し、運用・保守を効率化
- **インフラ点検・保守**：構造物の劣化状況を高精度に自動検知、可視化、さらに差分比較で劣化進行を把握
- **スマートシティや災害対策**：街区3Dにインフラを統合、災害・交通シミュレーションと関係者共有を迅速化
- **ロボティクス開発**：フォトリアル3D上でAMRの経路・回避を事前検証し、開発期間を短縮

5．収益モデル・販売形態

- **収益モデル**：サブスクリプション（SaaS）＋プロフェッショナルサービス（導入支援・社内システム連携）＋オプション（AI解析、API連携等）を組合せ、継続課金比率の向上を目指します。

- 販売形態：当社による直販に加え、パートナーエコシステムを拡大し、パートナーへの技術ライセンス提供、及び代理店販売も行います。

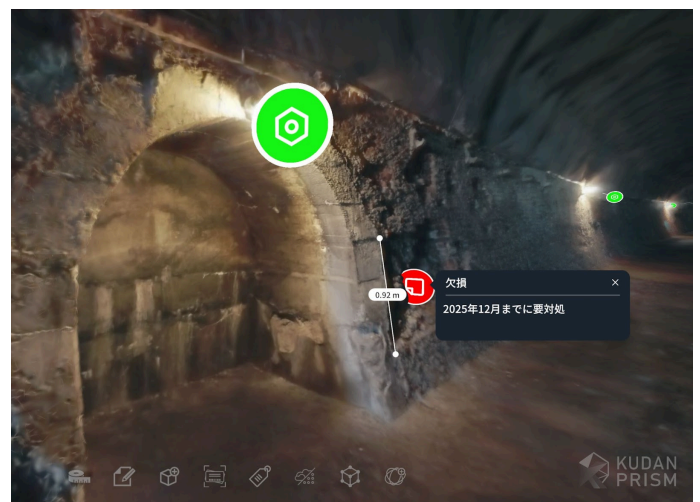
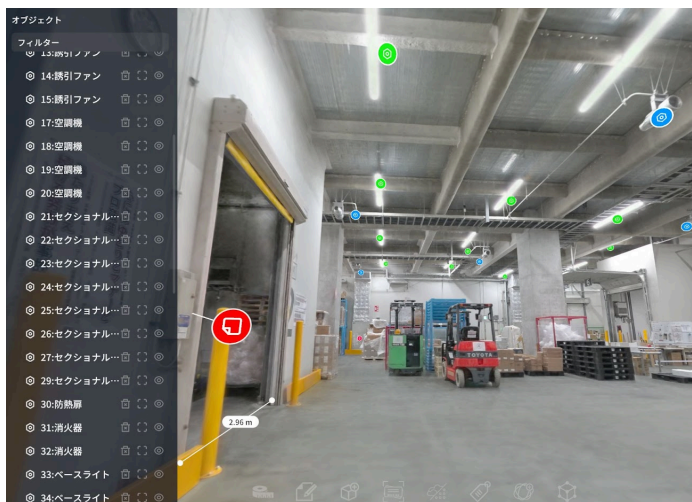
6．導入状況と今後の展開

Kudan PRISMは既に欧州及び日本において、インフラ運営、施設管理、製造分野の大手企業とともにPoC～小規模運用を複数実施し、設備データの精度・信頼性向上、点検・保全業務の効率化などの効果を確認しております。これらの成果を踏まえ、2025年内の本格展開と商用企業ユーザーの拡大を順次進めていきます。

今後は、更なる機能の高度化やユースケースの開拓等、多産業におけるパートナー企業との連携拡大を進め、公共・産業インフラ、施設・設備管理のDXを一層加速させてまいります。

7．業績への影響

本開示内容による当期業績への影響は、既に業績予想に反映済みであり、現時点において追加的な影響が生じる見込みはございません。なお、今後、開示すべき事象が発生した場合には、速やかに公表いたします。



※ 1 出典：<https://www.grandviewresearch.com/horizon/outlook/digital-twin-market-size/global>

※ 2 各調査機関（Verdantix, IMARC, MRFR 等）による成長率（CAGR 20~40%）をもとに、2040年にはデジタルツイン市場全体が100兆円（約7,000億ドル）規模に達すると推計される。

【Kudan株式会社について】

Kudanは、現実空間とデジタル空間を結びつける空間知覚アルゴリズムの研究開発と技術提供を通して、ロボティクス・自動運転・デジタルツインなどの次世代ソリューションの進化をリードしています。英国発祥のグローバル企業であり、革新的な人工知覚（機械の眼）を中核として、人工知能の適応をデジタル空間から現実空間に新たに拡張させ、あらゆる産業における自動化・無人化・遠隔化を後押しすることで、社会課題の抜

本的な解決と生産性の飛躍的な向上を目指しています。
詳細な情報は、Kudanのウェブサイト（<https://www.kudan.io/jp/>）をご参照ください。

■会社概要

会 社 名：K u d a n株式会社
証券コード：4425（東証グロース）
代 表 者：代表取締役CEO 項 大雨

■お問い合わせ先は[こちら](#)